



発行日：令和7年9月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第56回海部会WGを開催しました！

第56回海部会WGでは、市民の方に海の現状や課題を正しく伝えることや海と人との絆の重要性を啓発することを目的に、矢作川流域付近で開催されている地域イベントへの参加について、意見交換を行いました。

日時：令和7年6月12日（木） 14:00~16:00

場所：西尾市役所

参加人数：21名 *事務局を含む



◆主な会議内容

1. 参加するイベントについて

矢作川流域付近で開催されている地域イベントの確認を行い、参加するイベントについて意見交換を行いました。今期の海部会では「第12回三河湾大感謝祭」への参加に向け、調整を進めていくことといたしました。

【参加するイベントの概要】

イベント名称：第12回三河湾大感謝祭

日程：2025年10月5日（日）

開催場所：西尾市 吉良ワイキキビーチ

テーマ・目的：三河湾環境再生プロジェクトの一環として、多くの県民に三河湾に関心を持っていただき、三河湾の環境再生に向けた機運を高めるため

主催：愛知県

イベントの参加について「愛知・川の会」近藤事務局長より下記のご意見がありました。

- ・ イベントに参加する目的を明確化することが重要と考える。
- ・ 海と都市部の住民の意識が乖離（かいり）している問題をすり合わせるのが今一番大事だと思う。その中で「森・里・海」から欠けている「都市」という概念が重要である。
- ・ 里ではなく、都市が海から、山から恩恵を被っているが、そこにあまり意識がないという問題をどのようにしていくかが大事である。
- ・ 流域の問題の啓発もすることが大事と考える。

2. 情報共有・意見交換

栄養塩不足の問題について鈴木先生より下記のご意見がありました。

- ・ 今年、豊かな海づくり大会が開催される三重県の鳥羽・磯部周辺は海苔養殖、カキ養殖、青海苔養殖、シラス船曳網など漁業の基地であるが、現在は全ての水産資源が非常に厳しい状況である。
- ・ 水産資源の衰退には温暖化や黒潮の蛇行など様々な原因はあるが、ベースにあるのは2010年以降の栄養塩不足が一番大きな原因ではないかと考える。
- ・ 下水道は必要なインフラであるが、下水道処理はやり過ぎると逆に毒である（栄養塩不足が進む）こと、今の流域下水道の高度処理がどんどん進む中で、いったん立ち止まることは重要な発信事項であると考え。下水道整備は、広域な流域下水道よりも、従前からの中山間地での市町単位の下水処理、個別家庭での浄化槽等の排水処理などが大事ではないかと考える。
- ・ 中山間地の農業が非常に荒廃しており、その結果、本来の排出される窒素やリンが少なくなっている。一つの典型的な例として肥料の問題ではなく、中山間地の農業用肥料の販売量が格段に減っていることが挙げられる。
- ・ 山、川、海のつながりの中で起こっていること、単に臨海部の下水処理だけ管理すれば済む話ではないということを知ってもらうような働きかけを矢作川流域圏の海部会から何か発信できないかと思う。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

● 矢作川流域付近で開催されているイベントについて

- 9月、10月頃以降に矢作川流域付近で開催されるイベントとして、「SDGs AICHI EXPO」、「三河湾大感謝祭」「商業施設にてPR活動」などを情報共有する。(事務局補佐)
 - ▶ 「商業施設にてPR活動」については、愛知県が出張してブース出展するようなものであるため、海部会の活動としては「SDGs AICHI EXPO」と「三河湾大感謝祭」へのブース出展が有力と考える。特に「三河湾大感謝祭」は海をテーマにしたイベントで、多くの市民の方への啓発活動が期待できると考える。(藤井)
 - ▶ 三河湾大感謝祭に参加することとする。どのような形で参加するかは、事務局に一任するのではなく、部会のメンバーが自主的に参加し、体験したり、市民の声を直接聞いたりすることも重要である。(青木)
- 中学校や小学校に環境問題をテーマにした出前授業で話をする機会が何度かあり、そのような中で子どもたちに今の川の状態、海の状態、山の状態の話をする共感を得られる。学校でのイベントを企画し、WGで意見交換している内容を子ども向けに、簡単な資料や動画などで説明するののも一つの案と考える。(鬼頭)
- 栄養塩の問題を市民の方に具体的に何が問題なのか伝えるのは難しい。そのため、栄養塩が不足している場所の海苔と栄養塩が不足していない場所の海苔を並べ、色の違いを見て頂くことで視覚的に分かりやすくなると思う。(事務局)
 - ▶ 岡崎市戸崎町の商業施設に大型のディスプレイとイベントを行えるスペースがある。そのような施設でイベントを行うのも1つの案と考える。(太田)
 - ▶ 使える場として、水族館や博物館も考えられる。(戸田)
 - ▶ 矢作川流域圏懇談会はイベントの企画運営する場ではないと考える。懇談会で得た財産を部会のメンバーが主体に活動することが重要だと考える。また、子ども達は学校で環境問題について学んでいるが、それと自分がどう関係があるかという認識はほとんどないのが現状である。持っている情報と自分たちをつなげるのは現場や海苔などで伝えるのがよいと考える。(近藤)
 - ▶ 部会のメンバーやこれから参加する人たちが、ネットワークを広げて、部会で話題となった課題をPRし、それを少しでも具体的な形に転換できるか、そのような面でこの流域圏に参加してもらおう人たちの増やすことが大事ではないかと思う。(鈴木(輝))

● 「豊かな海」や「海と人との絆」の再生に向けた取り組みについて

- 取材を受けた際に、一番説明を求められたのは「きれい」と「豊か」とはどのように違うのかということであった。私は「きれいな海」か「豊かな海」の二者択一ではなく、「きれいで豊かな海」はあると考える。干潟や浅場が今のような港湾整備に伴って埋め立てられる前は天然の浄化機能があった。今のような下水道整備はないが、陸や都市部、農山間地からたくさんの窒素、リンが流れていても、「きれいで豊かな海」が存在していた。緊急性の面からでは、まずは栄養塩不足の問題となるが、干潟や浅場の問題は決して消えたわけではない。矢作川の中で砂の循環を戻すことも忘れないようにする必要がある。(鈴木(輝))
 - ▶ 同感である。危惧しなければいけないことは、この問題を下水処理の問題と捉えるのは間違いであることと思う。下水道の管理運営は緊急処置だと認識しておくことが大事だと思う。(近藤)
 - ▶ 最近は環境省や農林水産省が冬の田んぼに水を張る「冬水田んぼ」の取組を支援している。子どもの頃に冬は田んぼに水が張ってあり、レンゲが植えられ、春になるとレンゲを肥料にして、米を作っていた。そのような伝統的な農業のやり方と最近の近代的な農業との違いに着目するのも良いと思う。(事務局)
 - ▶ 矢作川流域圏懇談会で、中山間地の農業と川や海の水質との関係を勉強することも一つ大きな活動だと思う。(鈴木(輝))
- ダムが海や川に与える影響は多大であり、現在、設楽ダムの工事による下流の六条潟のアサリへの影響が注目されている。そのような問題があることや解決方法の提案を発信していく必要があると思う。(鈴木(輝))
 - ▶ 工事で発生した砂を海に投入する取組などを実施しているため、発信できればと思う。(事務局)



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 流域治水課

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

